

早急な居住支援協議会立ち上げを

町長 担当者含めて鋭意努力し、取り組んでいきたい

阿部

本町の住政策の根幹をなす、俱知安町住生活基本計画（H28改定版）の課題の一つであり、特に重要で緊急を要する住生活における高齢者・障がい者等への対応について伺う。

町民アンケート調査による町民の高い要望は、

①冬に暮らしやすい住生活を望む82・2%、②サービス付き高齢者向け住宅の整備を望む74%、③生活利便性のよい地域の賃貸住宅に住み替えができる仕組みを望む69%。

別の項目で住み替えに関する質問では、老後に関

迎える理想的な暮らしとは、持ち家を処分し、雪の心配が要らない賃貸住宅で利便性のよいマチナカに住み、人との付き合いができる場所とある。

阿部

65歳以上を対象としたアンケート調査によると、高齢者が希望するマチナカの住宅確保には約15億円以上かかる。官民の協働で高齢者のための施設を建設する施策を進めるべき。

俱知安町に20年以上住んでいる方は75%いて、最後の住まいで困っているのが現状。高齢者の住まいの対策については、本腰を入れる必要があると思うが、町長の決意を伺う。

町長

高齢者の専用住宅、障がい者への対応については、土地がないために町有地の活用について地域からも要望がある。一軒家をお持ちの高齢者は除雪の面から共同住

宅へ移りたい。若い世代にとつては一軒家で子育てをしたいが住宅用の土地が見つからない。

町の対応は遅れているが、住み替えがされることによつて各世代にわたつて良い住生活ができると考えている。

阿部

平成29年度に始まった本町の住み替え支援制度は2年続けて利用実績がゼロになっている。何か制度の欠陥や不備が考えられるのでは。

町長

年間収入が390万円以下の高齢者は78%もいる。除雪の面から民間のサポートに移り住みたくても、家賃月8万〜10万は支払えない。居住支援協議会の立ち上げについて、庁舎内で分析して真剣に議論すべ

町長

居住支援協議会については鋭意努力して取り組んでいきたい。サービス付き高齢者向け住宅については、民間での建設も含めて、町でどのような対応・支援ができるか併せて検討する。



地価の上昇が続く俱知安駅前通り



阿部 和則 議員

地価上昇による空き地が少なく現状において、町内のどこまでが適地なのか検討も必要になる。今後、民間事業者と連携した居住支援協議会の立ち上げについて調査検討を行い、早期に協議会を立ち上げたいと考えて

一般質問 阿部和則